

タスマニアがくれたもの

香川県立桜井高等学校
普通科2年 谷本佳江

私はタスマニアへ行く際に香川県とタスマニアの同じ点や違う点を見つけること、オーストラリア特有の訛りやアクセントなどを習得すること、そして日本食を振る舞い、文化を楽しんでもらうことを目標としていました。7月26日にタスマニアに着いて、まず発見したことは、山地が少ないことです。私が滞在していたウェストバリーは家畜を育てている農家が多く、広大な平地が広がっていました。香川県にはそのような広大な土地はなく、開放感に溢れていたのが印象的です。そしてホストファザーが水事情について教えてくれました。水不足という点では香川県も同じでした。しかし香川県は雨があまり降らない上、短くて急な川が多いのですぐに海に水が流れ出てしまうので水不足になっているのですが、タスマニアはほとんど雨が降らないので水不足になっていると言っていました。私が滞在した家では水を貯めているタンクのようなものがあり、それを生活用水として使っていました。とても貴重な情報の一つでした。

毎日ホストファミリーや現地の人と話す中で思ったことは、やはりオーストラリアの訛りです。タスマニアへ行く前にアクセントについて調べていたらエイと発音するところをアイと発音すると書いていて、それだけだと思っていたけれど全く違いました。ブラックファーストをブレッキーと言ったりアフタヌーンをアーヴォと言ったり全く別の言葉に変化していました。オーストラリアの英語の特徴としては、Rの発音をあまりしないことと単語を省略することでした。これはインターネットには載っておらず、現地で経験しないとわからない発見だと思います。はじめはとても苦戦して話せるはずの英語も話せず、コミュニケーションを取ることが難しかったです。

そして7月31日に家族に白ご飯と味噌汁を振る舞った際に、全員が白ご飯を見て驚いていたのが印象的です。なぜならオーストラリアではご飯をそのまま食べることがないからです。パエリアやチャーハンのようにして食べることがほとんどだからです。白ご飯を食卓においたとき、「味がしないでしょ?」や「美味しいわけない」など色々なことを言っていました。実際食べてもらったときに、「もちもちしていて美味しい」や、「甘いね」などすごく気に入ってもらえました。いつ食べ始めたら良いのか、食べ終わったらどうしたらいいか分からなかったのも、ご飯を食べるときは「いただきます。」を言い、食べ終わると「ごちそうさまでした。」と挨拶をする文化も伝えることができました。この挨拶は命をいただくという感謝の気持ちがあることも伝えることができました。このようにお互いの土地や文化の同じ点や異なる点を見つけることができたからこそコミュニケーションをより多くとることができたと思っています。

このような経験をさせていただいたことによって将来の夢に一步近づけたと思います。この経験は私自身の中に留めておくのではなく、周りの方々に魅力を伝えられたらいいなと思います。



▲7月30日 ロンセストン市長表敬